

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成27年12月 日

協議会名: 千曲市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千曲市地域公共交通会議	系統名: 東部地区デマンド型乗合タクシー 運行エリア: 千曲市東部地区	10人乗りワンボックスカーによるデマンド交通を導入することで循環バスでは運行できなかった集落内にも停留所を増設し、利用不便地域の解消を図った。 また、乗車便の2時間前までとっていた予約を1時間前までに短縮した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 年間利用者数は目標値5,000人に対し3,954人、利用登録者数は目標値720人に対し624人で、どちらも目標値に届かなかった。 1度利用された方には評判もよく、何度も利用される方が多いが、利用者が固定化してきている。 そんな中、27年3月に更埴老人福祉センターが廃止となり、それまで定期的に利用していた方の利用がなくなり、H27年度になって利用者が減少してしまった。 利用登録者を増やすため、デマンドの情報を掲載した「めぐりきり号通信」の全戸配布や、6地区で利用登録の説明などをする地域懇談会を開催し、多少利用登録者が増えたものの、今は車が運転できるのですぐに必要ないが将来は必要になるかもと考えておられる方も多い。 これらのことから、今必要な方は概ね利用登録して利用されているとも考えられるが、デマンド交通の仕組み自体を理解されていない方も多く、より丁寧なチラシ作製や説明が必要であると思われる。	利用者、登録者を増加させるため、民生委員を通じて高齢者にデマンドの制度の紹介をお願いしたり、地域を広げて説明会を開催することを検討するほか、「めぐりきり号通信」を引き続き全戸に配布し、よりわかりやすい説明をしていく。 また、地域協働推進事業において、地元商店街と連携し、商店街のスタンプカードと公共交通回数券との交換や、携帯電話のない高齢者のために予約を行う予約支援店を増やし、利用者の増加につなげていきたい。 なお、現状に合わせ、年間利用者数、利用登録者数の目標を下記のとおり修正したい。 年間利用者数 H28年度5,500人→4,500人 H29年度5,900人→4,700人 H30年度6,500人→4,900人 利用登録者数 平成28年9月末900人→720人 平成29年9月末1100人→820人 平成30年9月末1200人→900人